

教職員研究チーム活動状況報告書

| | | |
|-----------------|------------------------------|-------------------------|
| 代表者の所 属・職・氏名 | 県立川西北陵高等学校 職・氏名 教諭 小宮山 宏之 | 研究チーム名 (化学入試問題研究会) |
|-----------------|------------------------------|-------------------------|

研究テーマ分類番号 (17)

| |
|---|
| (1) 研究テーマ |
| 近畿地区の各大学の昨年度の化学入試問題についての研究 |
| (2) 研究経過及び具体的な取組 |
| <p>1 研究の目的としては、次の2点があります。</p> <p>ア 大学入試問題を高校と大学の接点ととらえ、高校側の意見を大学側へ伝える。</p> <p>イ 高校の教員の問題作成、問題解決能力の向上を図る。</p> <p>検討結果は、日本化学会近畿支部を通じて各大学へ送付しました。また、まとめた冊子を作成し、日本化学会近畿支部化学教育協議会が主催する「平成23年度大学化学入試問題をめぐる大学－高等学校交流会」の資料として提出しました。この交流会は、その年度の入試問題作成委員の大学の教員と、近畿地区の兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の高校の教員が、入試問題を題材にして化学教育のあり方や方向性を探るものです。</p> <p>2 研究経過</p> <p>4月 8日 県内40人の化学担当の教員に、それぞれの大学について入試問題検討を、大学への問題送付願いの文書と共に依頼</p> <p>6月 3日 担当教員が検討結果をA4一枚の文書にまとめ、事務局にて集約</p> <p>6月 9日 検討結果を冊子にして日本化学会近畿支部化学教育協議会(大阪教育大学)に送付</p> <p>6月12日 神戸高校にて研究チームの教員の出席のもと、兵庫県内検討会を実施。この会議を受けて、問題検討結果を修正。入試問題を吟味することで、近年の入試問題の傾向と問題点を共有することができました。出席者が少数なため、限られた大学の問題の検討となってしまうことが課題です。この活動を県下の教員に周知したいと考えています。</p> <p>6月17日 検討結果をまとめた冊子(A4版40ページ)を作成</p> <p>7月 8日 大阪科学技術センターにて、平成23年度大学化学入試問題をめぐる大学－高等学校交流会へ参加。兵庫県から7名の教員が出席し、大阪府、京都府、奈良県などの高校の先生、各大学の入試問題担当者を含め、130名ほどの方々で、4時間にわたって交流会を実施。高校現場の実状を説明し、入試問題についての意見を大学側へ直接伝えることで、大学の教員と高校の教員で共通理解を深めることができました。</p> <p>7月13日 検討結果をまとめた冊子を配布しました。</p> |